

水循環を巡る現状と課題について

- ◆ 水は生命の源であり、絶えず地球を循環し、大気、土壌等の他の環境の自然構成要素と相互に作用しながら、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与え続けてきた。
- ◆ しかしながら、近年、都市部への人口の集中、産業構造の変化、地球温暖化に伴う気候変動等の様々な要因が水循環に変化を生じさせたことにより、以下のような課題が顕著となっている。

I. 健全な水循環系の構築

(1) 水災害・渇水の頻発／気候変動リスクの懸念

≪現状≫

- 地球温暖化に伴って海面水位の上昇、大雨頻度の増加等による水害、土砂災害、高潮災害等がさらに頻発、激甚化することが指摘されている。
- また、近年渇水が頻発しているほか、将来的には無降水日の増加なども懸念され、さらなる危機的な渇水により都市機能の麻痺や社会経済活動に大きな影響を与える可能性がある。

⇒ 【課題：気候変動リスクへの適応】

(2) 進行する水インフラの老朽化

≪現状≫

- 水循環系を構築する水インフラは、戦後の高度経済成長とともに逐次整備されてきたが、老朽化した水インフラが今後急速に増加し、これに起因する災害時・事故発生時のリスクが高まっている。

⇒ 【課題：計画的な水インフラの老朽化への対応】

(3) 水環境・生態系の保全・再生

≪現状≫

- 公共用水域の水質に係る環境基準の達成率について、河川においては約9割（BOD：平成24年度）であるのに対し、湖沼においては約6割（COD：平成24年度）と依然として低い水準である。
- また、水質汚濁防止法等に基づく国及び都道府県の監視・規制や、

下水道の整備などの水質改善に向けた取組、多様な生物の生息・生育環境に配慮した河川・水域の整備や保全などの取組が推進されている。

- 生物多様性国家戦略2012-2020（平成24年9月閣議決定）において、水循環の基盤となる森、里、川、海を連続とした空間として捉え、流域全体の生態系を保全・再生していくことが求められている。

⇒ **【課題：水環境・生態系の保全・再生の取組】**

（４） 雨水・再生水の利用

≪現状≫

- 雨水・再生水の重要性が再認識され、導入事例が増加している。全国で雨水・再生水を利用している公共施設や事務所ビル等の数は3,654施設（平成22年度末時点）あり、トイレ（全体施設数の46%）や散水（全体施設数の22%）等に利用されている。しかしながら、利用量は年間およそ2億6千万m³であり、生活用水全体の1.7%程度（平成22年末時点）である。

⇒ **【課題：雨水・再生水の利用促進】**

（５） 地下水の保全と利用

≪現状≫

- 地下水の過剰な採取による地盤沈下は地表水への転換などの対策や規制により、近年沈静化の方向であるものの、平成6年などの少雨の年に地盤沈下が進行している地域がある。
- 一方、地下水位が回復しつつある地域では、地下構造物の浮き上がりなどに影響を与える事象もいくつか発生している。
- また、地下水質についても、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素等一部の項目で環境基準超過率が高くなっている。

⇒ **【課題：地下水の保全と利用のあり方】**

（６） 水源地の保全

≪現状≫

- 水源地の大宗を占める森林については、国土利用計画法や森林法に

基づく所有者の届出制度等により所有者の異動を把握するよう措置しているとともに、森林法に基づく保安林制度や林地開発許可制度により、伐採や開発の規制等を措置している。

- また、水源涵養機能等の維持及び向上を図るため、水源地の森林等の整備・保全に取り組んでいる。
- さらに都道府県独自の取組として、水源地における土地の買収等について事前届出の義務を課し、土地所有者等に水資源の保全の重要性を説明するという趣旨の条例の策定が行われている。（平成26年4月現在15道県が条例を制定）

⇒ 【課題：水源地の保全のあり方】

Ⅱ. 教育・普及啓発

《現状》

- 内閣府世論調査（平成20年）によれば、「使っている水道の水の水源」について、「知っている」とする人の割合は67.8%となっており、前回の調査（平成13年）の73.7%と比較すると水源に関する認知度は低下傾向にある。また、大都市や若年層ほど水源に対する認知度が低くなっている。

⇒ 【課題：教育・普及啓発を通じた風土・文化の醸成】

Ⅲ. 世界の水問題解決に向けた国際貢献

《現状》

- 我が国は、国連における2015年より先の国際開発目標の議論のリード、国連水と衛生に関する諮問委員会（UNSGAB）の支援及び世界水フォーラムへの参画、さらには、統合的水資源管理（IWRM）の普及のためのアジア河川流域機関ネットワーク（NARBO）等の設立、水分野における国際標準化への参画、ODA等による開発途上国への技術協力や施設整備の支援、我が国民間企業の有する技術を活用した水ビジネス展開への支援等を通じて、世界の水問題の解決に貢献してきている。

⇒ 【課題：国際社会でのプレゼンス強化】